

防災・避難訓練に参加しましょう!

絆「地域ぐるみで防災・避難救助活動を」

【1】氷川台自治会の概要

1. 地形と地質

標高 55.8m、約 7 万年前～1 万 8000 年前に形成された段丘ローム台地

2. 昼間人口

東久留米市は首都圏のベッドタウンということから、昼間人口比率は80.1%となっている。氷川台自治会に於いては、約4割が昼間も在宅していると想定する。

3. 高齢化率

東久留米市の人口において、65歳以上の高齢者が占める割合は約24.61%であり、東京都26市平均より高く、年々増加の傾向が見られる。氷川台自治会に於いては、平成28年5月15日時点で33.21%と東久留米市平均より高いが、年々減少の傾向である。

【2】被害想定

東京都防災会議は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえ、「首都直下地震等による東京の被害想定」を作成し、平成24年4月に公表した。この被害想定では、東京湾北部地震及び多摩直下地震を再検証するとともに、元禄型関東地震及び立川断層帯地震を新たに追加して検証しているが、東久留米市においては、従来と同様、多摩直下地震による被害が最も大きなものとなっている。そのため、前提となる地震モデル及び条件を「多摩直下地震（昼間正午）」に設定し、本訓練に反映させる

1. 前提条件

(1) 想定地震

項	目	内 容
想定地震	種 類	多摩直下地震
	規 模	マグニチュード7.3
気 象 条件等	季節・時刻	7月の正午
	風	8m/秒

* 東久留米市地域防災計画(平成25年12月改定)より

2. 想定結果の概要

(1) 全体の傾向(東久留米市地域防災計画)

ア. 東久留米市では、市西部で6強、市東部で6弱が想定される。

イ. 東久留米市全体の人的被害は、死者数約44人。建物被害は、全壊棟数約768棟が想定される。(ゆれによる全壊家屋は719棟であるが焼失家屋を加えると768棟)

ウ. 上水道の断水率は、約30～40%と想定され、下水道の管きよ被害率は、約23%程度となる。

項 目		都全体	区部	多摩地区	東久留米
電 力	停電率	8.8	7.8	11.0	7.7
通 信	固定電話不通率	2.0	1.3	4.1	2.7
ガ ス	供給支障率				
①全域でS I 値>60kine		6.5	0.1	29.1	0.0
②1/3でS I 値>60kine		84.6	81.1	97.2	100.0
上水道	断水率	36.9	38.7	33.1	31.2
下枢動	管きよ被害率	23.2	23.5	22.9	19.5

* 東久留米市地域防災計画(平成25年12月)より (%)

(2) 氷川台自治会の傾向

ア. 地盤から想定される被害状況(地盤サポートマップによる氷川台2-18付近)

- ・浸水の可能性：なし
- ・地震時のゆれやすさ：やや揺れにくい
- ・液状化の可能性：なし
- ・土砂災害の可能性：なし

イ. 想定される被害の傾向

- ・昭和30年初めに開発された西武住宅(氷川台自治会)は、60年の年月を重ねているが、殆どの住宅は、昭和56年新耐震基準施行以降に建て替えられているものと思われる。従って、地震災害に遭遇しても家屋の全壊・半壊住宅は少ないものとする。
- ・高齢化率が高いため、高齢者が家具の転倒等によって負傷者の増加が予測される。
- ・ブロック塀等の倒壊による被害
- ・瓦屋根家屋の瓦落下被害
- ・ライフラインの遮断
- ・火気器具利用が多いと考えられる時間帯で、これらを原因とする出火が予測され家屋の焼失被害

(3) 氷川台自治会の被害想定

ア. 建物被害は、東久留米市想定率で推定すると全壊5棟(768棟/56,041世帯)

イ. ブロック塀の倒壊個所…5か所

ウ. 揺れによる屋根瓦の損傷家屋…数家屋

エ. ライフラインの被害

- ・断水率から考えて高台に位置する氷川台自治会エリアは最も早く断水すると思われる。

オ. 断水により消火栓からの火災対応は限られてくるため、特に火災を発生させない防火対策が急務である。

(4) 氷川台自治会会員の避難生活想定

ア. 家屋全壊等による避難生活を与儀なくされる会員は僅かな数と想定し、自宅の安全確認後は自宅での生活を基本とする。

イ. 会員はライフラインが遮断された中での生活を想定した備えを十分にする。

ウ. 自治会会員の「支え合い・助け合い」で当面の生活を維持する。

エ. 氷川台は高台(標高55.8m)であり、市内でも断水確率は高いため飲料水の確保は最優先で行っておく必要がある。

オ. ライフライン遮断により、自宅での避難生活が無理な高齢者や要配慮者については、ライフパートナーこぶし又は聖グレゴリオの家に避難してもらう。

【3】災害時に対する自治会コンセプト

1. 日頃から会員相互がコミュニケーションを図り、全ての会員が会員を思いやる気持ちを持っていること。
(挨拶などを通じた小さなことの積み重ね、親戚のような気持ちであること)
2. 日頃から地域での行事や活動などを通じて協力しあう関係を持っていること
(祭りやサロンなどを通じながら、協力や顔見知りとなる関係を様々な場で構築)
3. 防災訓練・要援護者避難支援訓練などの取り組みの中で、日頃から防災に対する意識を持つこと
(防災会委員・要援護者避難支援隊員も、一般会員の方も器材の使用方法を熟知)
4. リーダー一人だけでなく、それを支える人達が責任を持ち協力する関係を築いている。
(全ての会員がなんらかの活動に参加し、責任を持って活動すること)

により、いざという時、共助・互助による助け合いの気持ちを原動力とした救助・避難活動につながるということを共通認識とする。

☆7月10日(日)13:30～防災・避難訓練には必ず参加しましょう!

(災害時に自分が取るべき行動を確認しておきましょう)

自分の身体は自分で守るのが基本です。次に会員同士の「支え合い・助け合い」

で災害に強いまち「氷川台」、安心して暮らせるまち「氷川台」をつくりましょう!!

注). 自治会では、会員の生活実態や住居状況等を勘案して、災害時に最良と思われる避難方法を検討推進しています。共助・互助の薄い避難者が押し寄せる避難所を避けて、会員同士の「絆」が強い氷川台で、会員の「支え合い・助け合い」で避難生活を送る体制の構築です。勿論、自治会とは関係なく避難所に直接避難される方を強制するものではありません。